

氏名(会員番号)	小林秀樹 (127)	参加回数	1 回目
参加した場所 (番号に○印)	① . 被災の記憶を巡る(東公園-防災公園-港の遺構) ② . 神戸市役所・防災展示室(河嶋さんの解説)124 ③ . 松山さん・今石さんとの懇親会 ④ . 3.17慰霊式典 ⑤ . 人と防災未来センター ⑥ . その他(野島断層／北淡震災記念公園・断層保存館)		
印象に残ったこと	1. 優しさ、明るさを象徴する神戸のフラワー フラワーロード。震災後の命名かと思っていたらそうではない、それ以前からの文化であることが市庁舎脇の花時計でわかる。震災後は花の持つ魅力が人々の心を結び復興エネルギーの1つになってきたのだろうと勝手に想像。 2. 震災の片りん見えない神戸、三ノ宮駅と行く先々 降りたったのはちがう街ではと感じさせる近代都市像の JR 神戸駅前、阪神三宮駅から二宮町へ向かうロード、街並み、神社仏閣、公園等々。20 年近く経つと当時のかたちが全く見えない、その記憶をどうして行くのだろうか。 3. 神戸加納町に災害を伝える「水害復興記念碑」 76 年前(昭和 13 年 7 月)の豪雨災害を伝える碑が目に入った。おそらく震災で移転を余儀なくされたのであろうが、歩道橋一角のポケットパークに地藏尊と立派な小屋掛けと隣合せに祀られていた。これぞ災害を伝えるかたちだ。 4. 東遊園地の MARINA 像も大震災の記憶の一つ 多くの記憶を残すこの地、「慰霊と復興のモニュメント」は忘れまい1.17、人びと共通の地であり、それぞれの想いを記した竹筒の光が新たな記憶の甦り、またその時刻に記帳と献花の列が続いた(約9000人と約11000人と発表)。 5. 市民が創ったみなとのもり公園、市民が使い管理する 「芝生広場(災害時避難地)」を中核とする広大な復興記念公園づくりは、市民活動の多くの成果を表している、端的にいうと分かりやすく使い勝手が良いと感じる。クラブや夫婦のアスリートが練習に余念がないのを見ても言える事、何といっても災害時(次は南海トラフ巨大地震)を想定した施設を隅々に見る。 6. 港の遺構、現場保存の訴求力の強さを見る 震源域にごく近いメリケン波止場にある一部の遺構保存と「メモリアルパーク」は国際港湾都市神戸を訪れる多くの内外人に恐怖の一瞬を伝える大きな力がある。澄んだ静かな波と破壊された波止場の対照が尚更異様に感じた。 7. 松山先生、今石市長室長の永続的取組みに市民は安堵 それぞれの専門職技能は異なるが、日々接する人々は違っても市民を守る意思の強さは不変であるだろうと感じた。だから、私共との懇親も深まり、大震災		

	20 周年を迎える 2015 年、新たな前進への取組みに応援もしたくなる 8. 生きる教材「人と防災未来センター」の活用 文字通り、1.17 の大災害を語り部・写真・映像・データ・現物・他資料等々で多くの人々に伝え、今日以降に活かす施設として類を見ない内容である様だ。教育性強いが、波止場遺構のように気軽に立寄れるところになればと感じた。 9. 3. 17 慰霊式典と多彩な関連出展 19 年も続く式典と大勢の参加者、風化させない行政と市民の強いメッセージを感じるが、マンネリ感を持つ市民の声も聴く。来 20 周年節目は、今石室長の前進がどんなかたちで・・・期待するところです。多くの出展も意義ある事。 10. 単独行の野島断層見聞 同じ兵庫でも淡路島の野島断層の現状保存は桁違いの規模に驚嘆、それだけ強力であったことを示す。震源は島最北の明石海峡であるが、断層は約 10 km も北淡町の瀬戸内海沿いを南下している。断層変位最大部 140m を保存 保存展示しているのが北淡自然公園内にある野島断層保存館。震災直後や保存前の航空写真などと現状を見比べると実態を客観的に把握できる。また隣接の民家と屋敷保存も生々しく当時の恐怖と術なしを伝えている。
今回参加した感想	記憶に失せている神戸、震災を知らない世代が都市で 40% になり、高齢化も同率程度に進展しているという。これまでのさまざまな取組みでの記憶と伝えが世代を超えて引き継がねばならない、単にこの地だけでなく人類共通の常識として災害記憶と教訓を持続しなければならないと改めて感じました。 それには、現場を見聞きすることが手っ取り早いし鮮明に記憶する手段でもあり、初めての神戸行きもその意味で大きな意義があった。これらをあらゆる機会をとらえて地域・サークル・行政や個人にも伝え共に考えることが予期しない災害発生時の備えと減災につながる個人で可能な行動と考えます。